

4. ヒト皮膚微小血管内皮細胞におけるニューロペプチドの影響

(皮膚科) 玉城 毅, 加藤雪彦, 古賀道之

【目的】血管内皮細胞は炎症やアレルギーの病態を解明するうえで重要な役割をはたしている。また, ニューロペプチドが皮膚炎を増悪させることも言われている。今回我々はこの二つの関連を調べる為に, ニューロペプチドである substance P (以下 SP) noradrenaline (以下 NA) がヒト皮膚微小血管内皮細胞 (human dermal microvascular endothelial cells: 以下 HDMEC) にどのような影響を与えるか検討した。

【方法】HDMEC に SP および NA で刺激し, 6 および 24 時間後に細胞表面上に発現している接着分子 (E-selectin) を flow cytometry にて検出した。また培養上清中のケモカイン (IL-8, RANTES, MCP-1) を ELISA にて測定した。

【結果】SP と NA 刺激全経過において E-selectin の発現は認めなかった。上清中の IL-8 と MCP-1 は SP と NA 刺激両方に検出された。RANTES は NA 刺激 24 時間後だけに検出された。

【結果】皮膚の局所の炎症に血管内皮細胞とニューロペプチドが関与していることが示唆された。

5 膠原病患者における抗apolipoprotein A-1抗体の解析

(内科学第3) 阿部 治男, 太原恒一郎,
高梨 博文, 坪井 紀興,
林 徹

(東京都臨床医学総合研究所炎症研究部門)

梅田 真郷

目的) マウスにおいては, apolipoprotein A-1 (apo A-1) に対する自己抗体の報告は有るがヒトではその報告はない。SLE患者末梢血由来のヒト型抗apo-A1モノクローナル自己抗体 (IgM) 産生株を樹立し, ヒトで初めて同抗体の存在を明らかにしその反応性を解析した。実験方法) 1) 膠原病患者57名で空腹時採血を施行し各種血清脂質とapo-A1に対する抗体価の関連をELISA法で検討した。2) EBVでトランスフォームした抗ヒトapo A-1自己抗体産生クローン (IgM) からHybridomaを作成し最終的に6クローンをHPLCで精製し各種抗原との反応性を主にELISA法で検討した。

結果) 1) 膠原病患者において抗apoA-1 IgM抗体の高値群は低値群に比し血清HDL, apoA-1は有意に低値を示した。2) 抗apoA-1 IgM抗体は構造変化を伴ったHDLのapoA-1を認識していると思われる。

6. サルコイドーシスBALF中CD4⁺T細胞のサイトカイン産生能によるsingle cell level

(内科学第一講座) 國澤 晃, 楠本 洋, 田胡 秀和,
川西 慶一 米丸 亮, 中野 優, 市瀬裕

一マウスと同様にヒトのCD4⁺T細胞がサイトカイン分泌によってTh1/Th2の機能グループに大別されてきている。今回我々はサルコイドーシス (サ症) のBALF中リンパ球の特にCD4⁺T細胞のサイトカイン産生能をJungらの方法に準じflow-cytometryを用いて測定した。対象はBALを施行したサ症症例18名, 健常例5名である。

CD4⁺T細胞でIFN- γ 産生能を持つものはサ症で健常例との間に有意差を認めなかった。IL-2産生能を持つものは, サ症は健常例に比べ有意に増加していた。IL-4ではサ症と健常例に比べ低値であったが2群間に有意差は認められなかった。IL-5産生能を持つものは, サ症は健常例に比べ有意に低下していた。また, IL-4産生細胞のうちIFN- γ 産生能をも持つ細胞の割合は2群間に有意差は認められなかった。IL-4産生細胞のうちIL-2産生能をも持つ細胞の割合はサ症において健常例に比べ有意に増加していた。ヒトではマウスのように単純にの肺末梢においてTh1側に偏っていると考えることはできない。